



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 河川事業】

事業名	安全な川づくり事業
事業箇所	一級河川 秋山川 L=3,800m 佐野市 <small>おおごやちょう</small> 大古屋町地先～ <small>おおはしちょう</small> 大橋町地先
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 河川課

事業の概要

【現況】

目標事業期間 (変更前)	平成27年度～令和13年度 (平成27年度～令和13年度)	
事業経過	平成27年度	事業化
	平成27年度	用地着手
	平成30年度	工事着手
全体事業費 [うち用地補償費]	交付金事業 33.3 (28.0) 億円 [1.0 (1.0) 億円] ※ () は前回計画時	
事業延長 [うち整備済延長]	L = 3,800m (うち激特事業 L=3,000m) [L = 2,900m]	
進捗率	基準年次：【令和6年度末時点】	
		費用 進捗率
	既投資事業費	23.3億円 70%
	[うち用地補償費	0.9億円 90%]

【目的】

一級河川秋山川は、その源を佐野市秋山町地先に発し、旧葛生町及び佐野市街地を南下し、佐野市船津川町地先で一級河川渡良瀬川に合流する河川である。

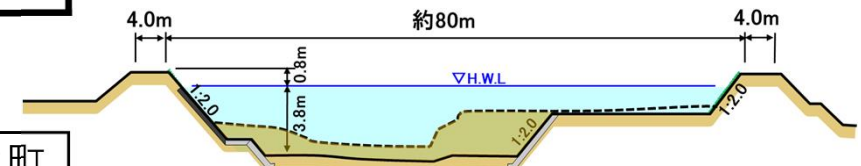
本事業区間は河道狭小で流下能力が不足しており、度重なる浸水被害が発生していたため、河川断面を拡大し浸水被害の軽減を図ることを目的として平成27年度に事業着手した。

その後、令和元年東日本台風による堤防決壊を伴う大規模な浸水被害が発生したため、交付金事業に加え河川激甚災害対策特別緊急事業を導入し、緊急的な河川整備を実施している。

【事業概要図】



【標準横断面図】



- 計画規模：1/30確率
- 計画流量：430m³/s
- 計画勾配：1/300

凡例
 - - - 現況断面
 — 計画断面

出水時 (令和元年10月13日)

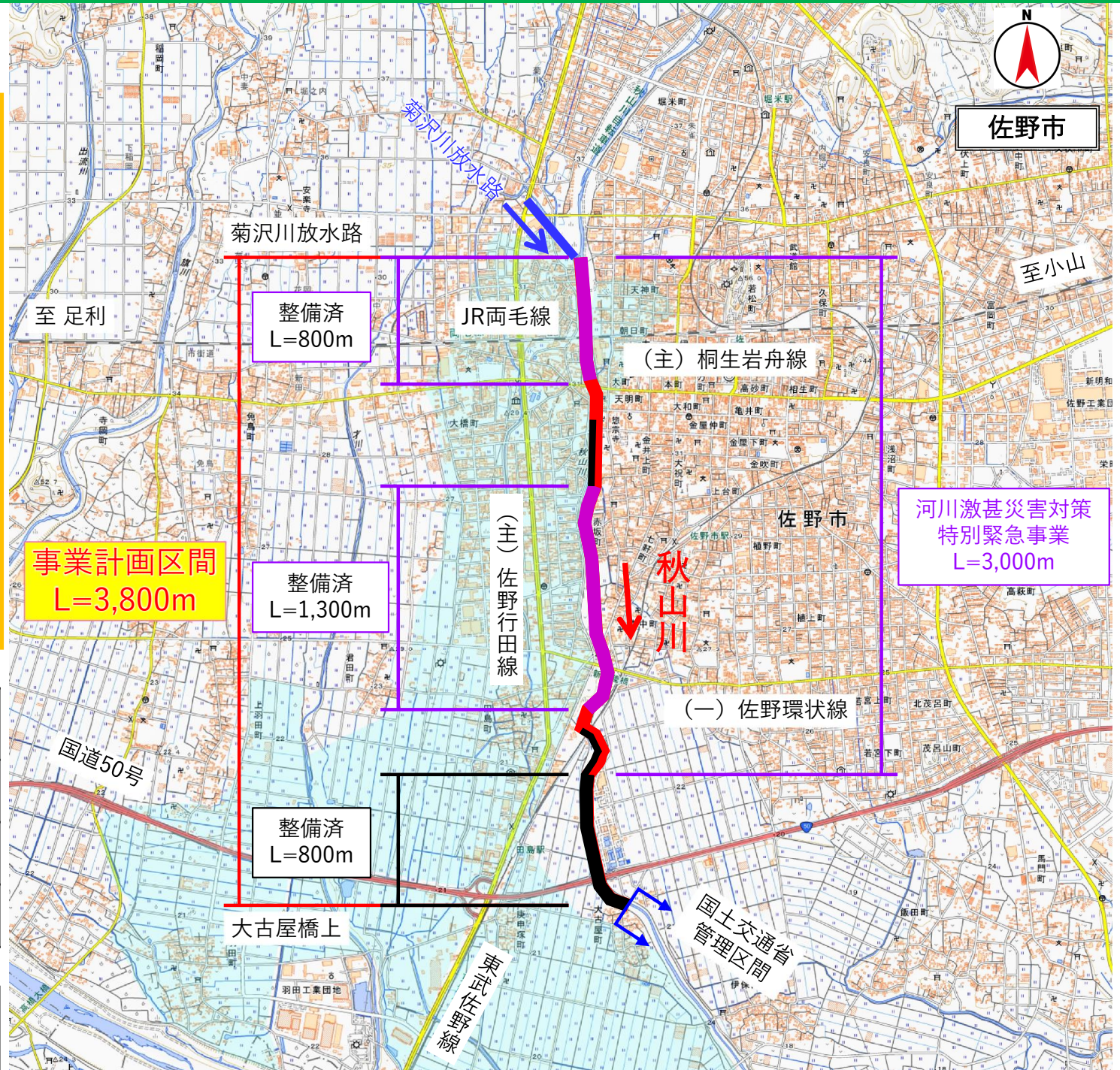


堤防決壊状況 (令和元年10月13日)



事業の概要

【箇所の概要】



凡 例	
事業箇所	—
整備済箇所	—
激特事業箇所	—

: 令和元年東日本台風浸水実績
 (浸水範囲899ha、床上床下浸水2,047戸)

II 事業の評価

【今後の事業進捗の見込み】

- ・ 総事業費の見直し
28.0億円 ⇒ 33.3億円

【全体事業費の見直し】

前回計画
(H26年度)

今回計画

	事業費	28.0億円 ⇒ 33.3億円 (+ 5.3億円)
内	工事費	27.0億円 ⇒ 32.3億円 (+ 5.3億円)
訳	用地補償費	1.0億円 ⇒ 1.0億円 (± 0.0億円)

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B / C	総便益 (B)	総費用 (C)
(1) 事業全体	8.8	852.4億円	97.1億円
(2) 残事業	15.4	136.4億円	8.9億円

2 事業の整備効果等

- ・ 整備を図ることで、計画規模 1 / 30 の降雨で想定される宅地、道路や農地の浸水被害が解消される。
- ・ 河川断面の拡大による河岸・水際部の整備にあたっては、現況の瀬や淵を極力保全するとともに、水際部に植生が繁茂できるよう配慮し、生物の生息・生育・繁殖環境の多様性に配慮する。

II 事業の評価

【事業の進捗状況等】

※令和6年度末時点

1 事業の進捗状況

- 全体事業進捗率 70%
- 用地 90%
- 工事 69%

2 今後の事業進捗の見込み

- 用地取得、工事を推進し、令和13年度を目標に事業完了を図る。

JR両毛線上流（河道掘削・護岸整備）

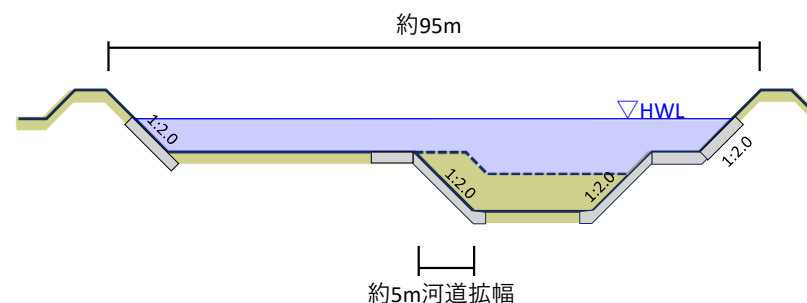
整備前



整備後



横断面図



【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- 河川の掘削土砂を築堤材として活用し、コストの縮減を図る。
- 他事業と調整し、建設発生土の事業間連携を図る。

2 代替案立案等の可能性

- 河川整備に必要な事業用地は90%取得済みである。また、代替案として遊水地や放水路を整備することが考えられるが、工事に要するコスト等を考慮した場合、有利となる本計画が最適である。

【事業の対応方針（案）】

- 本計画で事業を継続する。